ニュース＆トピックス
No.2024－188
（2025.3.28）

信金中央金庫 地域・中小企業研究所
上席主任研究員 井上 有弘
０３－５２０２－７６７１
s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営（49）
2024 年度末を控えた預金動向

－「金利が上がる世界」で預金獲得力が試される新年度に－

ポイント

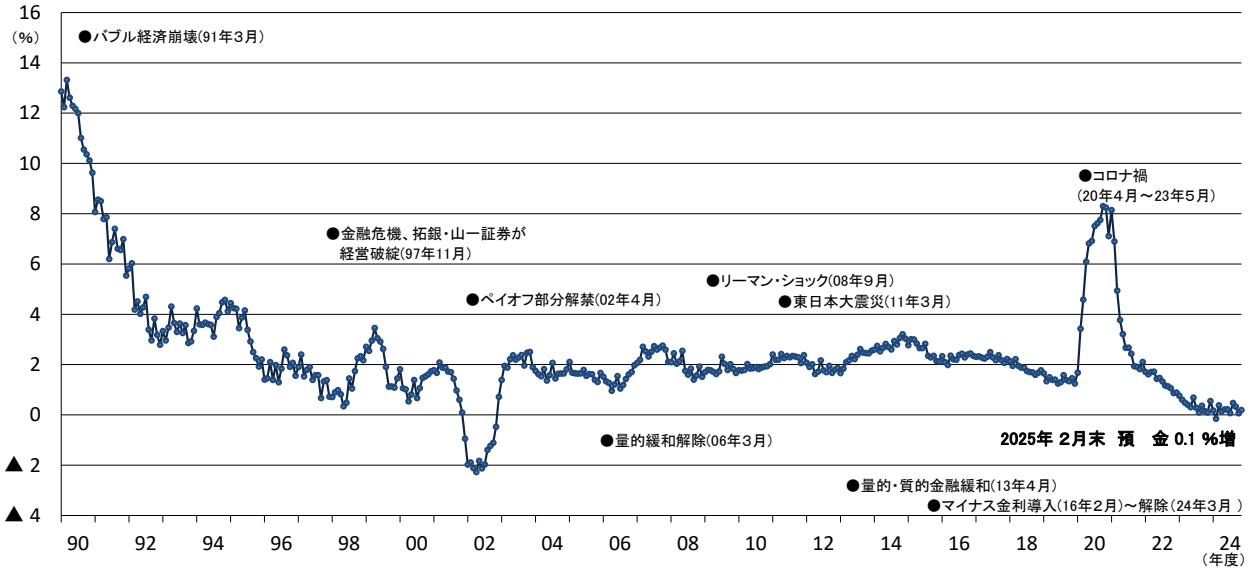
- 信用金庫の 2025 年２月末の預金増減率は、前年同月比で 0.1%増となった。信用金庫の預金は、24 年５月末に同 0.1%減となったあとも、低い増加率を続けている。
- 預金者別かつ科目別にみると、個人の要求払預金が増加に寄与、個人の定期性預金が減少に寄与し、両者がほぼ拮抗するかたちで預金全体としては低調な伸びとなっている。
- 定期性預金の獲得は今後本格化すると見込まれる。来る 2025 年度は、「金利が上がる世界」を前提に信用金庫の預金獲得力が試されることになる 。

１．2025 年２月末までの預金動向

日銀が 2025 年１月に政策金利を 0.5%に引上げ、25 年度中のさらなる利上げが見込まれるなかで 2024 年度末を迎える。本稿では、最新の 25 年２月データまでをもとに、足元の信用金庫の預金動向を確認、来る 2025 年度への展望を示す。

信用金庫の預金は 24 年５月末に前年同月比で 0.1%減となり、ペイオフ部分解禁の制度要因を除けば、初めての減少となった(**図表1**)。その後も 0.0～0.4%の低い増加率を続け、25 年２月末では 0.1%増となっている。

（図表１）信用金庫の預金動向（前年同月末比増減率）



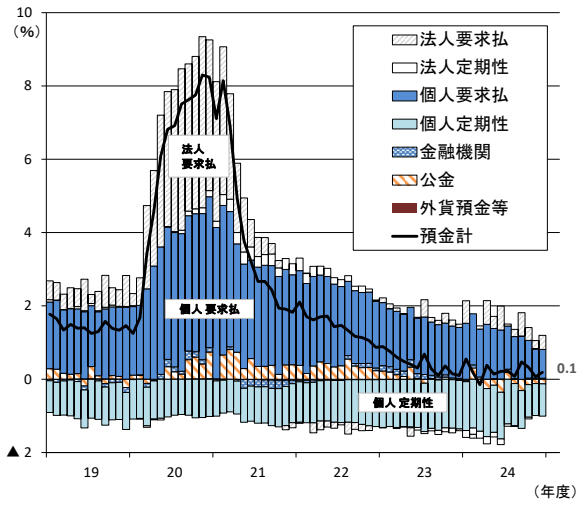
（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

２．預金者別預金の動向

近年の信用金庫の預金動向を預金者別かつ科目別にみると、預金増加率が低調な要因が分かる。コロナ禍の 20 年度にはいわゆるゼロゼロ融資や各種給付金等によって法人の要求払預金が預金全体の増加に大きく影響した(**図表2**)。その後は、預金残高全体の約 75%を占める個人預金の寄与が多くを占めるようになっている。科目別では、個人の要求払預金が増加に寄与、個人の定期性預金が減少に寄与している。

両者の寄与がほぼ拮抗するかたちで、23 年度以降は預金全体としては低調な伸びとなっている。

（図表２）信用金庫の預金者別預金の動向
（前年同月比増減率の寄与度分解）

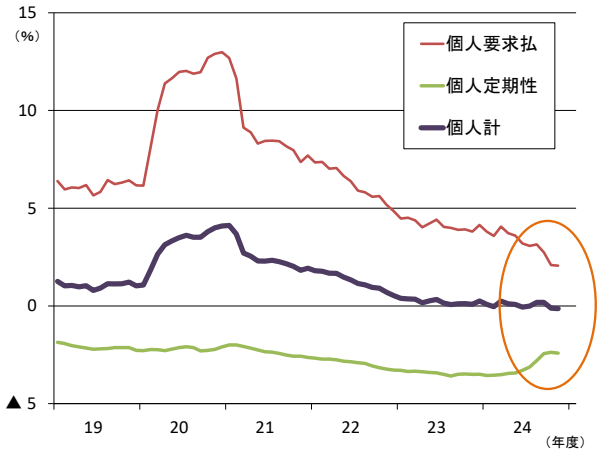


（備考）信金中央金庫　地域･中小企業研究所作成

３．個人預金は足元でわずかに減少

個人預金の科目別増減率をみると、利上げの影響が確認できる。24 年 7 月の日銀の利上げ以降、個人の要求払預金と定期性預金の増減率は対称的な動きをしている(**図表3**)。低金利下で要求払預金に滞留していた資金が、金利の付く定期性預金にシフトしているといえる。ただし、定期性預金の減少率縮小が十分ではないため、個人預金全体としては 25 年 1 月、2 月にわずかながらマイナス(ともに前年同月比 0.1%減)となっている。

（図表３）信用金庫の個人預金の動向
（前年同月比増減率）



（備考）信金中央金庫　地域･中小企業研究所作成

日銀の 25 年 1 月の追加利上げを受けて、預金金利を引き上げた金融機関は多い。信用金庫では、競合する金融機関に比べて引上げタイミングを遅らせる場合もあり、定期性預金の獲得は今後本格化すると見込まれる。来る 2025 年度は、「金利が上がる世界」を前提に信用金庫の預金獲得力が試されることになる[1]。

以　上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」（https://www.scbri.jp/publication/toukei/）に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがいまして、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

[1] 信用金庫の預金戦略については、「「金利のある世界」での信用金庫の預金戦略－セグメント別にみた粘着性を高める取組事例－」（信金中央金庫 地域･中小企業研究所 金融調査情報 No.2024-13、2024 年 12 月、https://www.scbri.jp/reports/finance/20241209-post-515.html ）を参照